

(1) 単元名： 日常食の調理をしよう

(2) 本時の目標： ① だしに含まれる「うまみ」に気づかせる
② だしのとり方がわかる

【国頭中学校学年研修 ①】

国頭中の学年研修は、学年代表1名の先生がそれぞれに授業を公開し、放課後に、互いの授業についてのリフレクションを行う。教科ごとでなく、学年別であることに大きな意義がある。参観者は、校長、教頭、同学年の担当教師、空きの時間の教師が授業を参観する。校長と教頭は可能な限り参観し授業について研究協議で助言する。研究協議のリフレクションテーマはつねに、「生徒の『学び』がどうであったか？」が中心に語られるが、教師の「学び合う課題やテーマの設定」、「聴く・つなぐ・もどす」はどうかであったかなど、具体的な教室の事実によって協議される。赴任してまだ5ヵ月の授業者である。「なんとなく、だいたい、こんなもんかな？」授業者の「不安」をぜひ全職員で共有したい。



【だしソムリエになる】

かつお・昆布・にぼしの3つの「だし」を当てる。みんなソムリエになった気分です。まずは「におい」嗅覚で確かめ、用心深く少しずつ口に含み味見する。楽しそうである。みんな思い思いに感想を語る。味覚は様々である「お家の味」「私の好きな味」があるが、今日は学習なのですべて試食し、その違いや特徴について、互いに語り学んでいく授業デザインである。



【「気づき」をまとめる】

▲それぞれの試食の解答と感想(特徴やちがいは)についてグループでまとめる。グループ内でリーダーがグループの意見として考えを集約することになる。…さて？ 解答を各々にあずけ互いの「味を見る」という「感性」のすり合わせにすると、もっと「学び合い」が発生したのではないだろうか？

グループとして「まとめる」のではなく、個人の考えを大切にしたい。集約によって消される個人がある。



【技能教科における実習】 実習は楽しい。技能教科学習の最大の醍醐味でもある。家庭生活の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ…とあるが、やはり家庭科と言ったら料理実習である。



理屈抜き「楽しい」。活動的で協同で事が進められ、さらに私たちの味がある。「まずい」も「うまい」もすべて経験で知ることになる。教師は期待に応えられる授業の準備が必至になる

◎ ほとんどのグループが試食の感想を言うだけの対話になっていたがこのグループは違った。まず男女の隔たりがなく4人で向き合って対話が進められていた。さらに相手の



考えに「なぜ」が違和感なく向けられていた。

「学び合い」か「言い合い」か、授業者で見にくいところの学びの質を同僚が互に観察し共有したいものである。素敵でした。

グループでの話し合の後「私たちの班では・・・」という言葉に象徴される発表は是非やめたい。小グループ活動で学んだとしても、最後は自分の意見として「私は・・・」で始まる表現にしたい。

佐藤雅彰『公立中学校の挑戦』 P89

M先生お疲れさんでした。5ヵ月がたち、慣れてきて、少しずつ見えてくるころかな？授業公開ありがとうございました。ゆっくり焦らず頑張っていきましょう。研究協議に出席できなくてすみませんでした。

▲ 生徒からの「先生～」が多い → 教師は一度話したら、その後は自分たちで仲間やグループで確認させるようにしましょう。常に生徒に応じていると、生徒は1回で話を聞かなくなります。「聴いてなくても」「後でまた聞けばいい」になってしまいます。気を付けましょう。

▲ もう少し声量を落としても全然大丈夫だと思います。→聴いてくれる。→信じる →任せてみる。

(1) 単元名： 化学変化とイオン

(2) 本時の目標： ①ヒトの体にとってイオンは必要不可欠なことに気づく
②水溶液に含まれるイオンをもとに元の電解質が推測できる

【国頭中学校学年研修 ②】

【共有の学び】 ラベルから探る。ペットボトルのスポーツ飲料のラベルから陽イオン、陰イオンを調べる。

各グループごとにスポーツ飲料が配布され、実際のモノから調べる作業である。しかし、このモノを観察して、ワークシート等を書き写す活動というのは、単純に書き写して名前を調べるという「調べ学習」に、なりがちである。

授業デザインの際には教材研究と準備、課題(テーマ)設定、「学び」のきっかけとなる教師の「問い(発問)」



の準備が必至である。

【全体での共有】

生徒をコの字に向かい合わせ、みんなで共有する。教師の問いに反応したのは二人…なぜである。クラスのカラーその日の状況、いろいろあるが、ぜひ3学年で協議してほしい



【孤独】 学びようがない。一番後ろの席で一人でぼつんと座っている男子生徒(写真①)が最初から気になった。欠席者がいたのだろうか? 「学び」は、テキスト・他者・自己との対話である。自己との対話も、相手がいるとその意見や考えを聴いて更なる自問である。写真②、授業後半に仲間が来てくれたが、向こうに取り残される女の子が出てしまった。

教室空間をデザインする。教師のポジショングをデザインする。共同体では、授業も、教師も生徒も決して孤独であってはならない。



写真①



写真②

「聴き合う」・「支え合う」は生徒同様、教師も素直に受け入れる心が大切。

【ジャンプ課題】 スポーツ飲料をつくるための原材料を考えよう。

テーマが下ろされた授業者は、グループを回りながら、詳しく説明する(写真③)。写真④、「先生ほく飲んだことないから、検討しようがない。」訴える生徒。確かにそうである。「先生飲んでみてもいいですか?」同じ話が別のグループからも出てきた。授業者は、生徒達はみんな「飲んだことのある。」と判断していたが、思わぬ授業の躓きが出てしまった。



写真③



写真④



写真⑤

K先生お疲れ様でした。「焦らず ゆっくり」しかし、しっかり前を見据えて進んでください。先生の教職経験の歴史はまだこれから積み重ねられていくものです。焦りは絶対禁止です。ゆっくりでいいです。K先生なりの「学び」の理念と授業経営を追求してください。

今回は、私が「学びの共同体」の勉強を進めるうえで、ほんとに私の心にグサグサきて、私自身のこれまでを改めさせられ、考えさせてくれた一冊の本を紹介します。・・・ぜひ購読を進めます。

授業がうまくいかない、子どもとの関係がうまく築けない、子どもが自分の思うように動いてくれない。この思いにかられるほとんどの教師が、子どもに「語りかける言葉」で行き詰まっているのです。(はじめに)

教師はどんな場合でも、教えなければいけないことをもっているものです。さらに、それをどう教えようかというプランももっています。そのうえ子ども達を正しく導かなければという使命感も有しています。ですから、どうしても、自分の用意したことを、プランどおり、わかりやすく指導したいと考えます。そこに落とし穴があるのです。(P38)

石井順治『教師の話し方・聴き方』(ぎょうせい)

(1) 単元名：「ヤマト王権と仏教伝来」

(2) 本時の目標：聖徳太子はどのような政治を行ったのか。「17条の憲法」から考察する。

【国頭中学校学年研修③】

【授業導入】

こちら4月からの臨任の教師である明るく元気ハツラツがモットーのような若い教師である。

この字の中央に腰かけ、しっとり授業

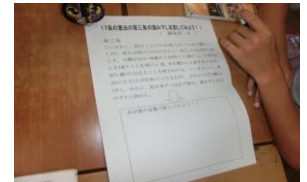


導入であるが、やはり生徒達と聖徳太子について問答するうちに、声が大きくなりテンションが上がっていく。間違いなく授業への情熱は一流である。すばらしい！

一学期から積極的に「学び」について取り組んでいるが、ほとんどの教師がこの『テンションを下げて、声量を落とし、言葉をできるだけ少なくする。』にこれまでの自分の授業経営とのジレンマを感じて苦悩する。皆同じように悩んでいるのである。大切なことはこの一人の教師の苦悩を皆で共有し「語る」ことである。

【共有課題】

聖徳太子の憲法十七条の第三条の読み下しを訳する。→ 小グループへ



「読み下して何？」私の目の前のグループですぐに「分からない」が共有された。すばらしい

【学び合い】

ワークシートをもとに「学び合い」が進む。教科書、資料集、辞書、簡単に解読できない言葉が多くある。生徒達はちょっとした言葉を手掛かりに勘を働かせ



「訊き合う」。簡単でないから「学び合う」必然性が生まれる。資料等から調べられるだけ調べて、いきづまって（学びの滞り）しまわないように教師は全体を見回し気を配る。分からなくなって躓く者には、「訊き合う」を促し仲間になくことが教師の役割である。

【ケアする】

静かでおとなしい子に眼を向けたい。対話に入れる。関わりをつくってあげる



【ジャンプの課題】 聖徳太子になったつもりで憲法第1条を自分でつくってみよう。



【つながる】

仲間の発表に笑みを浮かべる女の子。つながった。

グループで学び合い→発表へ。よくある授業パターンであるが、できるだけ発表のみで終わりにたくない。発表した仲間の考えとの「すりあわせ」までを設定したい。「なぜそう考えたの？」と仲間とつなぎ、仲間の言葉でさらに自己の考えの深化を図りたい。語る側、聴く側すべてに「学び」が還元される。

T先生お疲れ様でした。貴重な授業を拝見させていただき感謝します。

「9回裏、2アウト、ランナー3塁。」初球からでも打っていきそうな先生らしい情熱の授業でした。

9月10日 地区校長研修会にて

「教えたことを『学びたいこと』に転換する授業づくりを・・・」沖縄の子どもたちの幸せのために、共に国恵を出し、共に工夫を重ねていきましょう。 国立教育政策研究所 樺山敏郎先生

